

東欧地域都市広場形態についての考察

—2009年東欧地域海外都市広場補完調査報告—

芦川 智・金子友美・高木亜紀子

The Report on the Form of City Squares in Eastern Europe
—The Complementary Field Survey of Foreign City Squares in Eastern Europe (2009)—

Satoru ASHIKAWA, Tomomi KANEKO and Akiko TAKAGI

Our surveys on overseas city squares began in 1990 a year after the fall of the Berlin Wall. The first survey we reported was of Eastern European city squares. Since then we have conducted 5 surveys in the area, the last of which was done in 2009, nearly twenty years after the first survey. In 2009 we hoped to observe the changes which the increasing democratization that occurred over the preceding two decades had brought to the cities. In addition, we hoped to do surveys we had been unable to do before 2009.

This paper reports on the geographical and morphological analyses of 28 city squares (14 Czech, 5 Polish, and 9 Slovakian), each with their unique histories.

Key words: city square (都市広場), open space (空地), field survey (フィールド調査), community space (コミュニティー空間)

(1) はじめに

都市の広場に目を向けて研究の対象としたのは1984年のことであった。当研究室における継続的研究テーマ、10年間の中心課題として、海外都市広場の調査を始めたのが1990年であり、調査は2005年まで16年間継続し、調査回数は20回を超える。以下にこれまでの調査実施状況を示す。

第1回は、東ヨーロッパ(ドイツ、ポーランド、チェコスロバキア、ハンガリー、ユーゴスラビア5カ国)を対象として行われ、第2回は東ヨーロッパ(ハンガリー、ルーマニア、ブルガリア)とトルコ、ギリシャ、イタリアの6カ国を対象とした。第3回はトルコ、ギリシャ2カ国を対象とし、第4回は、北欧とフランドルを中心としてドイツ、スイス、フランスを付加。第5回はアラビア半島南端のイエメンを、第6回はイタリア北部地域を対象として行われた。第7回は、モロッコ、ポルトガル、スペインの3カ国で実施され、第8回は、南仏、スペイン、ポルトガルの3カ国であった。第9回調査は、第6回の北部イタリアを補完するべく南部イタリアを対象地域とした。第10回調査は、ヨーロッパ中央部であるドイツを中心に、その周辺部を含めて対象地域とした。第11回調査は、第10回調査の補完の意味を含

めてポーランドとベネルクス3国を対象地域とした。第12回調査は、チベットとネパールを対象地域とし、第13回目の調査はロシア・バルト3国とした。第14回目調査は中国蘇州周辺と三江周辺の2地域とした。第15回目調査はフランス、スイス、イタリアで実施し、2000年にヨーロッパで実施した駅空間の調査等の報告も加えている。第16回目の調査はインドネシアのバリ島とし、第17回調査はフランス南西部とした。第18回調査はインド北部地域で行った。2005年の第19回目イギリス調査を以って、一連の都市広場調査は一旦終了したが、本稿では主として2009年に行った東欧地域都市広場の補完調査をまとめる。

さらに、2005年以降は、視点を変えてアジアの歩行者空間に関する調査研究を行い、2005年から2009年に行った5回の調査報告を本誌に発表している。以上の概要を以下に示す。

(2) 調査計画

海外都市広場調査の第1回調査: 東ヨーロッパ(ドイツ、ポーランド、チェコスロバキア、ハンガリー、ユーゴスラビアの5カ国) [1990年9月初旬から25日間実施]

第2回調査: 東ヨーロッパ(ハンガリー、ルーマニア、ブル

ガリア), トルコ, ギリシャ, イタリアの6カ国 [1991年8月初旬から28日間実施]

第3回調査: トルコ, ギリシャの2カ国

[1992年7月末から27日間実施]

第4回調査: 北欧とフランドルを中心としてドイツ, スイス, フランスを加えた地域

[1993年9月初旬から18日間実施]

第5回調査: アラビア半島南端のイエメン

[1994年5月に13日間実施したが, 内戦勃発のため中断, 1995年5月に再度実施]

第6回調査: イタリア北部地域

[1994年7月末から25日間実施]

第7回調査: モロッコ, ポルトガル, スペインの3カ国

[1995年8月21日から29日間実施]

第8回調査: 南仏, スペイン, ポルトガルの3カ国

[1996年9月2日から24日間実施]

第9回調査: 南イタリアを中心として北イタリア, オーストリアを加えた地域

[1997年8月21日から25日間実施]

第10回調査: 中欧地域としてドイツを中心にチェコ, フランスを加えた3カ国

[1998年8月10日から27日間実施]

第11回調査: ポーランド, ベネルクス3国の4カ国

[1999年8月2日から22日間実施]

第12回調査: チベット, ネパールの2カ国

[2000年8月24日から15日間実施]

第13回調査: ロシア, バルト3国等の7カ国

[2001年8月4日から27日間実施]

第14回調査: 中国蘇州周辺および三江周辺

[2002年8月29日から14日間実施]

第15回調査: フランス, スイス, イタリアの3カ国 [2003年8月25日から21日間実施]

およびイギリス, フランス, スイス, イタリアの4カ国 [2000年9月14日から25日の12日間実施], 鶴田佳子の単独調査地を付加。

第16回調査: インドネシアのバリ島

[2004年3月14日から6日間実施]

第17回調査: フランス南西部

[2004年9月15日から9日間実施]

第18回調査: 北インド地域

[2005年3月12日から23日の12日間実施]

第19回調査: イギリス地域

[2005年9月2日から15日の14日間実施]

アジアの歩行者空間に関する研究の第1回報告: 麗江(中国), 九份(台湾), 伊香保(日本)等の歩行者空間

[2005年12月29日から8日間麗江で実施。2006年3月

13日から6日間台湾で実施。2006年3月27日から2日間伊香保で実施]

第2回報告: 2007年までに調査した階段空間を対象にその空間特性を整理した報告

第3回報告: タイのバンコクおよび周辺都市

[2007年3月14日から7日間実施]

第4回報告: ウズベキスタン

[2008年3月14日から9日間実施]

第5回報告: 韓国タルトネ

[2008年9月24日から4日間, 2009年1月4日から3日間, 2009年3月14日から6日間の3回実施]

2009年東欧地域海外都市広場補完調査

[2009年9月1日から16日間実施]

(3) 2009年東欧地域の調査概要

1990年から2005年まで継続的に行った海外都市広場調査研究と, それ以降2009年まで行ったアジアの歩行者空間に関する研究は, いずれも都市の歩行者空間の研究としてまとめられる対象である。

1990年第1回海外都市広場調査が行われたのは1989年の東欧革命の翌年であったから, 2009年の調査は革命20年後の節目にあたる。調査目的は2つあり, 1つは, 20年を経た東欧の都市の変貌を確認すること, いま1つは20年前に調査できなかった広場の補完調査を行うことであった。

2012年に報告した「チェコ共和国における民主化と都市空間の変化—民主化20年後の東欧—」(学苑No. 861)は, 2009年時点での東欧都市の変貌についての報告である。

今回の報告は2009年の広場補完調査の報告である。実施した国はチェコ, ポーランド, スロバキアである。

①調査対象国: 東欧地域(2009年)

②実施期間: 2009年9月1日~9月16日の16日間

③調査メンバー

調査研究責任者: 芦川 智(昭和女子大学生生活機構研究科教授)

調査研究責任補助者: 金子 友美(昭和女子大学環境デザイン学科准教授)

同 : 高木亜紀子(昭和女子大学環境デザイン学科助手)

学部生スタッフ: 小林美喜子(本学生活環境学科3年)

同 : 高橋 優貴(本学生活環境学科3年)

同 : 中島 瞳(本学生活環境学科3年)

同 : 保坂 純子(本学生活環境学科3年)

同 : 山本実可子(本学生活環境学科3年)

④調査日程および調査行程図 (図-1)

1. 9月 1日 (火) Tokyo→Wien
2. 9月 2日 (水) Wien→Mikulov→Brno (134 km)
3. 9月 3日 (木) Brno→Velké Meziříčí→Třebíč→
Telč→Praha (290 km)
4. 9月 4日 (金) Praha 市内
5. 9月 5日 (土) Praha→Tábor→České Budějovice
→Český Krumlov→Prachatice→
Plzeň (351 km)
6. 9月 6日 (日) Plzeň→Mělník→Mladá Boleslav
→Liberec→Nymburk→Poděbrady
→Hradec Králové (375 km)
7. 9月 7日 (月) Hradec Králové→Nysa→Wrocław
→(Opole) (340 km)
8. 9月 8日 (火) (Opole) → Gliwice → Rybnik →
Kraków (315 km)
9. 9月 9日 (水) Kraków→Kežmarok (167 km)
10. 9月 10日 (木) Kežmarok→Poprad→Spišská Nová
Ves→Levoča→Bardejov→Prešov
(201 km)
11. 9月 11日 (金) Prešov → (Vlkošínec) → Žilina →
Trenčín (331 km)
12. 9月 12日 (土) Trenčín → Banská Štiavnica →
Banská Bystrica (252 km)
13. 9月 13日 (日) Banská Bystrica → (Hollokö) →
Budapest (267 km)
14. 9月 14日 (月) Budapest→Wien (271 km)
15. 9月 15日 (火) Wien→
16. 9月 16日 (水) →Tokyo 走行距離合計 3,294 km

※() 内の距離数は車で移動距離を示す

(4) 調査内容と方法

調査準備は文献収集から始まる。文献資料から調査対象候補都市を選定し、その都市図と調査すべき広場の状況を把握し、歴史的経緯を読みとる作業を従来のごとく行った。一都市に広場は多く存在するが、その都市の中心となる空間を探し、そこに存在する広場を対象としていくことが原則である。

目標の都市に到着すると、その都市の市街地図や道路標識などを手がかりとし、現地の住民にヒアリングをしながらセンターゾーンにアプローチする。都市のセンター概念の明確な今回の場合は比較的センターと広場が対応している場合が多かった。

①調査内容: 具体的な調査内容は以下ようになる。

●測定・作業: 平面形態 (平面図の作成), 規模の測定, ファサードの記録 (ビデオ, 写真), 関係資料の収集 (地図, パンフレット, 絵はがき, 文献等)

●観察・確認項目: 都市における位置, 広場名称, 広場機能, 周辺建築の種類

●その他, 各調査員による観察・ヒアリング等

②調査機材: カメラ, ビデオ, 距離測定機器, コンベックス, スケッチブック等

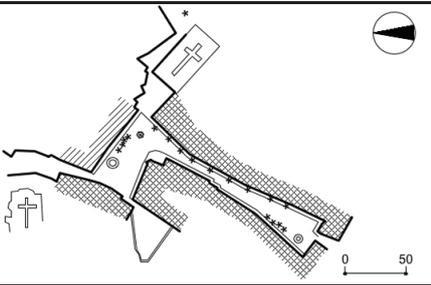
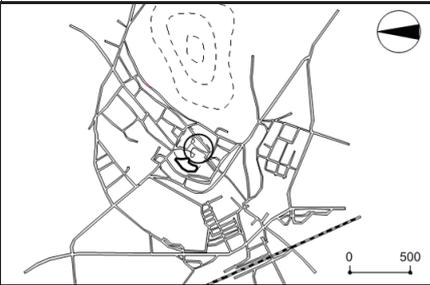
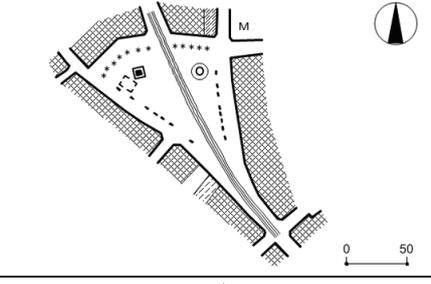
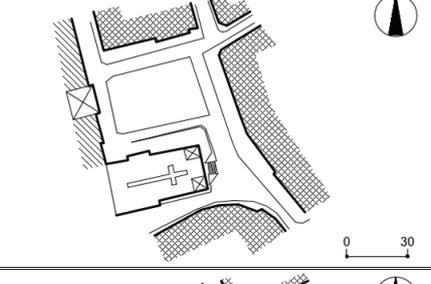
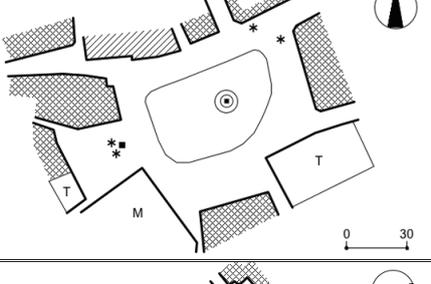
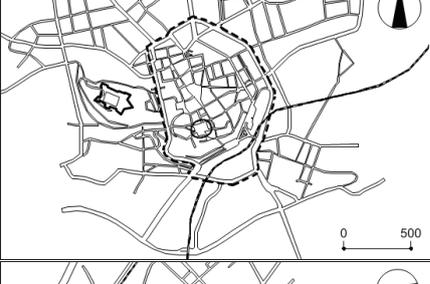
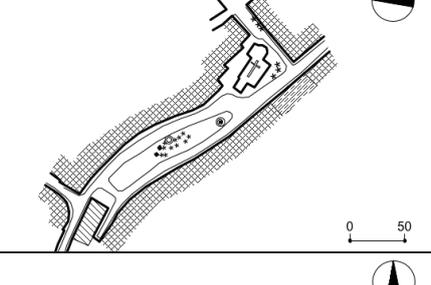
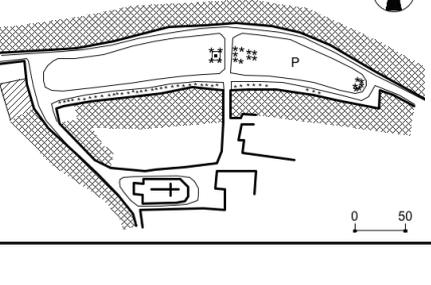
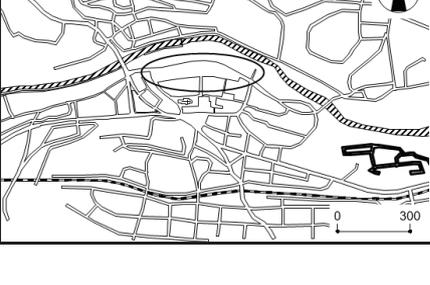
(5) 調査結果の概観

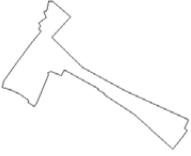
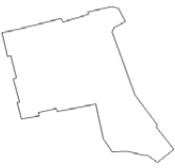
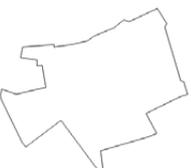
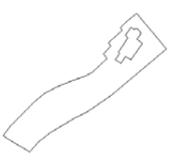
調査都市の数は24都市で、それぞれチェコ14広場、ポーランド5広場、スロバキア9広場となっており、28の調査事例を得た。そのリストを図-2 2009年東欧地域海外都市広場補完調査リストに示す。

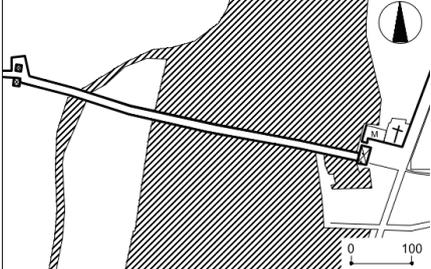
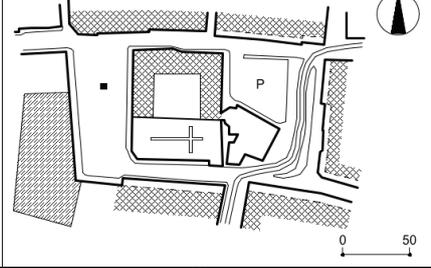
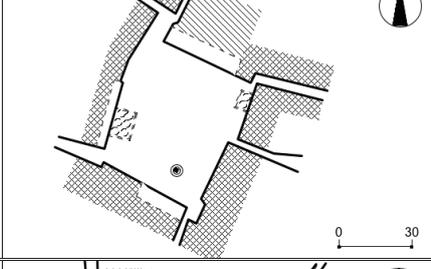
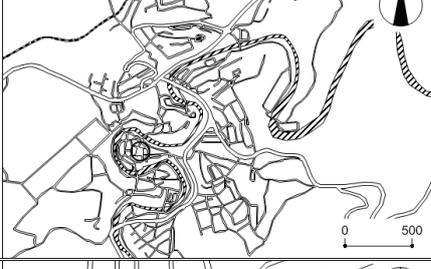
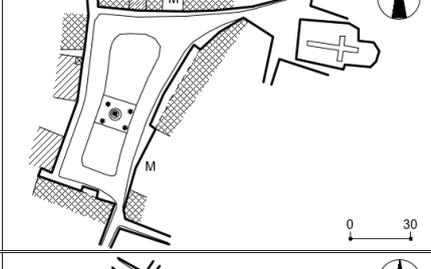
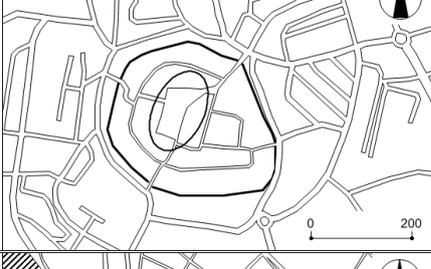
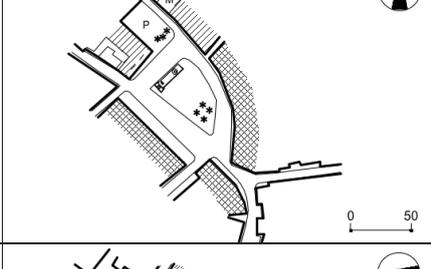
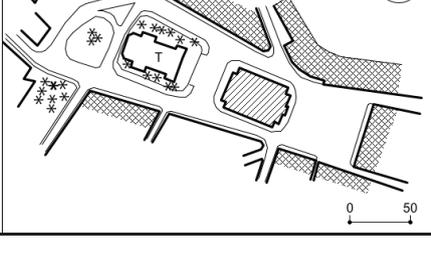
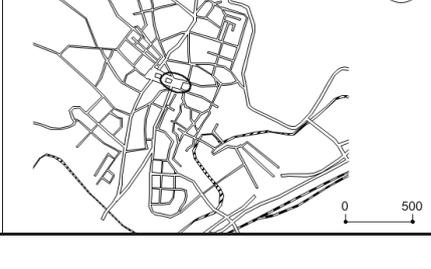


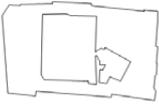
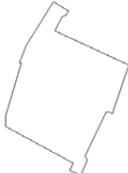
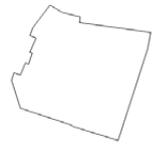
図-1 調査行程図

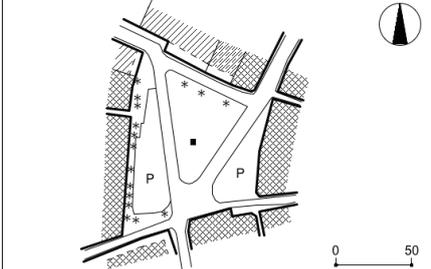
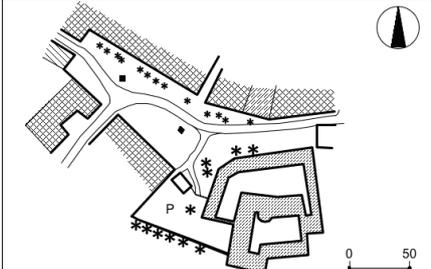
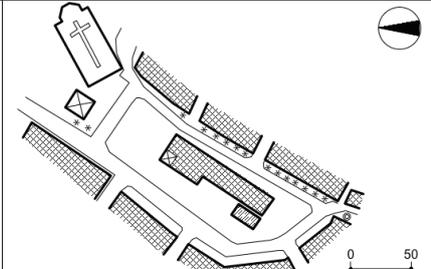
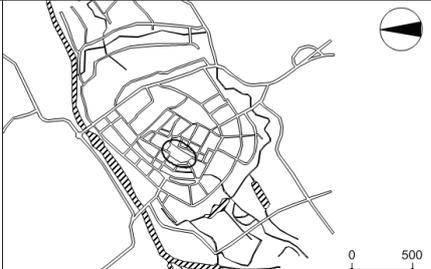
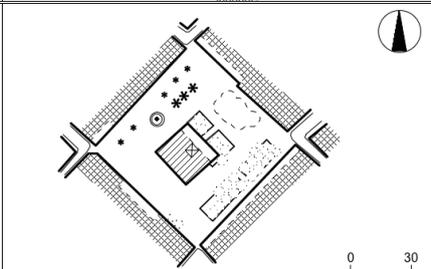
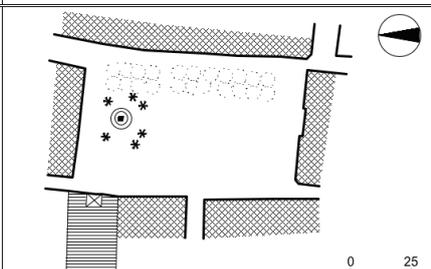
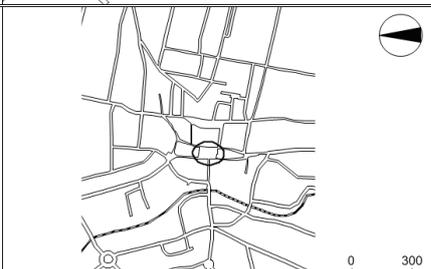
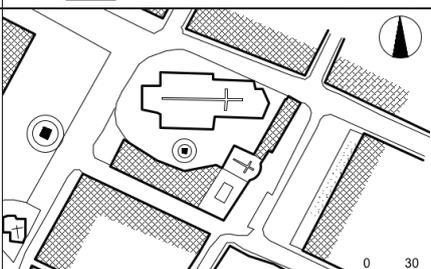
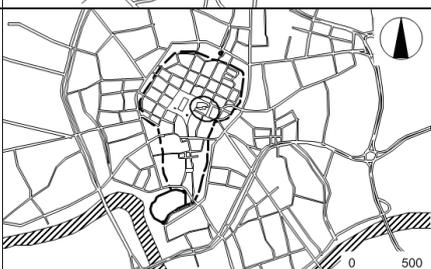
図-2 2009年東欧地域海外都市広場補完調査リスト

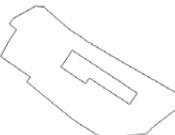
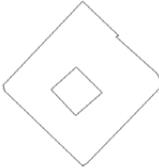
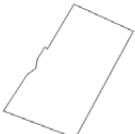
CODE	国・都市・広場名称	広場形態	都市における広場の位置
CZE-09-01	国 : CZECH 都市: MIKULOV 広場名称: Náměstí Kostelní Náměstí		
CZE-09-02	国 : CZECH 都市: BRNO 広場名称: Náměstí Svobody(自由広場)		
CZE-09-03	国 : CZECH 都市: BRNO 広場名称: Dominikánské Náměstí (ドミニカン広場)		
CZE-09-04	国 : CZECH 都市: BRNO 広場名称: Zelný trh(野菜市場) Malý Špalíček(the Little Block)		
CZE-09-05	国 : CZECH 都市: VELKÉ MEZIRÍČÍ 広場名称: Náměstí		
CZE-09-06	国 : CZECH 都市: TŘEBÍČ 広場名称: Karlovo Náměstí		

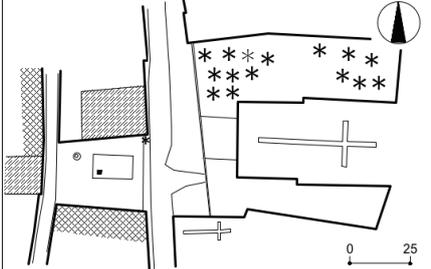
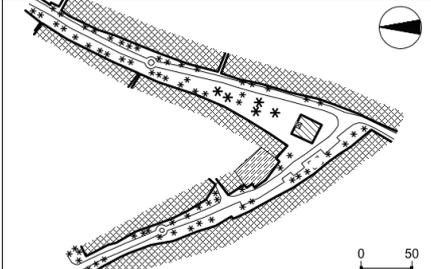
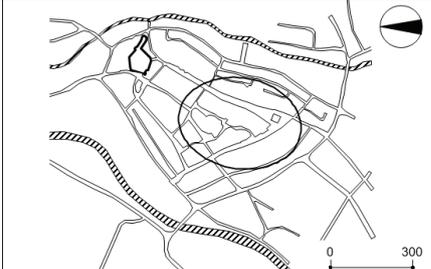
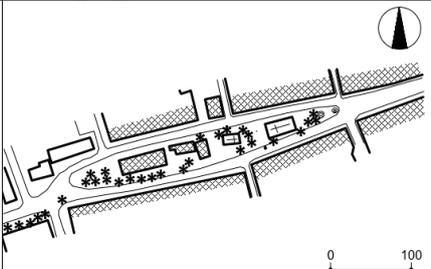
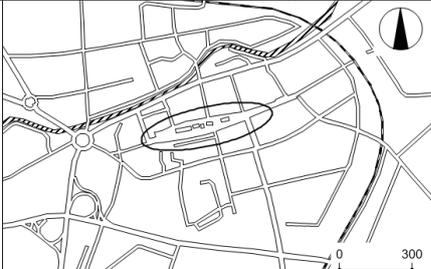
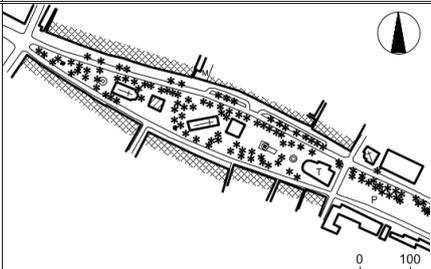
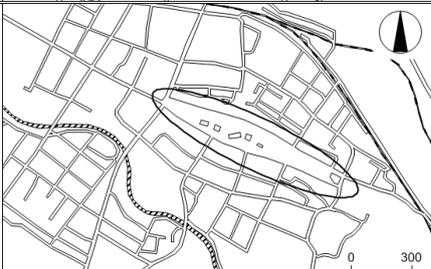
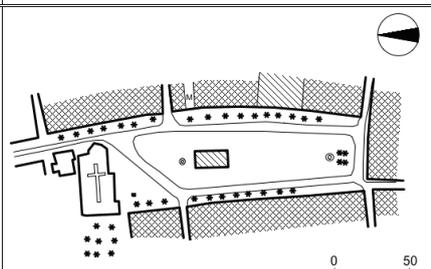
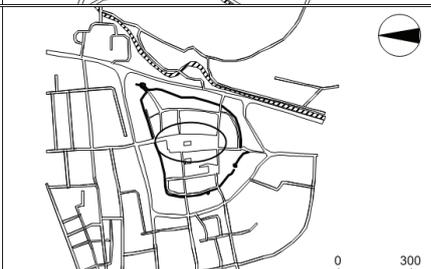
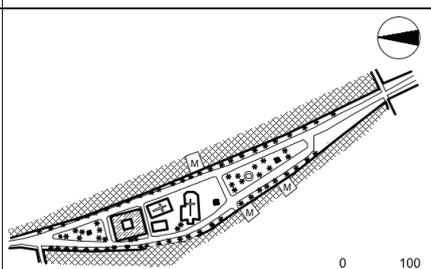
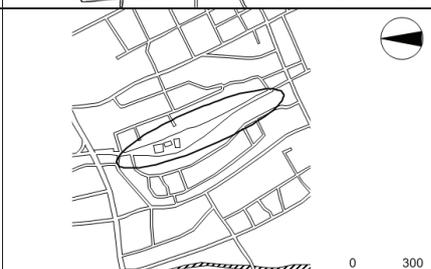
規模	広場機能	周辺建築物	資料	都市および広場の概要
5953.3㎡ 	市庁舎前広場 教会前広場 通り広場	市庁舎 ミクロフ城 ST. VÁCLAV教会 聖三位一体像 GRAFFITO HOUSE 泉・像 DIETRICHSTEINの墓(教会) 商業施設	資料01 資料45 資料02 資料04 資料05 資料06 資料07 資料08 資料22 資料23	南モラヴィア州の町で、オーストリアとチェコの国境近くに位置する。バルト海沿岸で産出された琥珀をアドリア海沿岸へ運ぶ交易路上に位置していたため栄えた町である。かつて、ミクロフには大規模なユダヤ人コミュニティが存在していたが、第二次世界大戦で迫害を受け消えていった。広場は北側の市庁舎前から南西側に街路状に広がる。広場に面する建物は16世紀の大火災により、18世紀にバロック様式で建てられたものである。 担当者 高橋 優貴
10959.3㎡ 	博物館前広場 商業広場	ベスト記念柱 博物館 KLEIN'S PALACE SCHWANZ'S HOUSE HOUSE OF THE FOUR TITANS 聖ニコラス教会跡のモニュメント 仮設舞台 商業施設 警察署 噴水	資料01 資料18 資料03 資料19 資料04 資料20 資料05 資料24 資料06 資料46 資料07 資料08 資料15 資料17	チェコで2番目に大きく、モラヴィア地方の中心都市である。18～19世紀にかけてモラヴィアの工業の中心地となり繁栄した。かつてこの広場は下の市場(Dolnírynek)と呼ばれていた。第二次世界大戦で大きな被害を受け、広場の中心にあった聖ニコラス教会も破壊された。現在では石のモニュメントとして輪郭だけが残されている。三角形の広場は20世紀の初めに新ルネサンス様式に再建され、自由広場と呼ばれている。今日の町の中心でありレストランやカフェが多く建ち並び人も多い。歩行者空間になっているが中央を路面電車が通っている。毎年秋(9月)にはイベントが催され、調査時は仮設舞台が設置されシェイクスピアの劇が上演されていた。 担当者 小林 美喜子
5033.7㎡ 	新市庁舎前広場 教会前広場 駐車場	新市庁舎 SV. MICHALA教会 商業施設	資料01 資料18 資料03 資料19 資料04 資料20 資料05 資料24 資料06 資料46 資料07 資料08 資料15 資料17	現在の市庁舎前の広場である。自由広場から南西へ入った所に位置する。調査時は広場整備のため工事中であった。 担当者 芦川 智
8345.9㎡ 	市場広場 旧市庁舎前広場 博物館前広場 劇場前広場	旧市庁舎 バルナスの泉 モラヴィア博物館(旧宮殿) 三位一体柱 プルノ国立劇場 HUSA NA PROVÁZKU劇場 商業施設	資料01 資料18 資料03 資料19 資料04 資料20 資料05 資料24 資料06 資料46 資料07 資料08 資料15 資料17	自由広場と同様に13世紀につくられた、市が立つことで有名な広場である。かつては上の広場(Hornítrh)と呼ばれ、プルノの中心広場であった。キャベツを売る市場として人を集めていたが、現在は野菜・果物・花などが売られ、午前中は賑わっている。広場の北側には旧市庁舎があり、中央には17世紀にJ. B. Fischer von Erlachによって作られたバルナスの泉がある。南西側に面するモラヴィア博物館はかつてモラヴィアの最も古い宮殿であった。 担当者 小林 美喜子
9093.3㎡ 	教会前広場 市庁舎前広場 市場広場 通り広場	市庁舎・警察署 聖ニコラス教会 ルター派教会 高等学校 噴水・聖フロリアン像 1945犠牲者の碑 柱・聖ジョンの像 MICHKA'S PALACE 商業施設 井戸	資料25 資料47	オスラヴァ川とバリンカ川の合流点に建っていた城(現在博物館)の周辺に人が住み集まったことでできた町である。19世紀、プラハとプルノを結ぶ通商路上に位置していたこともあり、産業が発達した。その後定住者が増加し、繁栄していった。通り状の広場の北端には市庁舎、南端には教会がある。市庁舎は14世紀に建てられ、16世紀にルネサンス様式で再建された。広場では毎日市場が開かれている。 担当者 高橋 優貴
20801.9㎡ 	市庁舎広場 市場広場 交通広場 駐車場	市庁舎 ST. CYRIL AND METHODIUSの像 バス停留所 地下公衆トイレ 商業施設	資料03 資料06 資料08 資料15 資料26 資料48	町は1101年にベネディクト会の修道者によって開かれた。広場は、チェコの中でも大きな広場として知られており、市が開かれる時に使用する台が広場の一部に置かれていた。市は月曜日から金曜日の朝8時から、品物が売り切れるまで(午後2時位)開かれ、主に野菜や果物が売られている。また、広場の南側にある聖マルティン教会の塔から広場を一望することができる。この町の北側にはユネスコ世界遺産に登録されているユダヤ人街があり、修復が進められ町並みが保存されていた。 担当者 保坂 純子

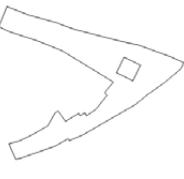
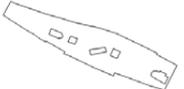
CODE	国・都市・広場名称	広場形態	都市における広場の位置
CZE-09-07	国 : CZECH 都市: PRAHA 広場名称: カレル橋 Křížovnické Náměstí		
CZE-09-08	国 : CZECH 都市: PRAHA 広場名称: Malostranské Náměstí (小地区広場)		
CZE-09-09	国 : CZECH 都市: ČESKÝ KRUMLOV 広場名称: Náměstí Svornosti (スヴォルノステイ広場)		
CZE-09-10	国 : CZECH 都市: PRACHATICE 広場名称: Velké Náměstí Kostelní Náměstí		
CZE-09-11	国 : CZECH 都市: MĚLNÍK 広場名称: Náměstí Míru		
CZE-09-12	国 : CZECH 都市: LIBEREC 広場名称: Náměstí Dr. E. Beneše		

規模	広場機能	周辺建築物	資料	都市および広場の概要
8019.6㎡ 	橋上広場 橋詰広場	旧市街橋塔像(30) マラー・ストラナ橋塔 イトカ橋塔 クレメンティスム 聖フランティシエク教会 カレル4世像 露店 カレル橋博物館	資料01 資料18 資料02 資料19 資料03 資料20 資料04 資料27 資料05 資料49 資料06 資料08 資料15 資料17	カレル橋とその袂の広場である。カレル橋は1357年にそれまでのイトカ橋の代わりとしてレンガ造で設計された。1741年まで旧市街とマラー・ストラナ地区を結ぶ唯一の橋であった。全長500mを超える橋の両側には30の聖人像が並び、この橋の象徴となっている。現在は露店が並ぶ観光名所である。旧市街側には橋詰広場がある。広場からは旧市街塔とカレル橋を望むことができる。 担当者 保坂 純子
14178㎡ 	教会前広場 宮殿前広場 旧市場広場 駐車場	リヒテンシュタイン宮殿 聖ミクラーシュ教会 聖三位一体の円柱(ペスト記念柱) 劇場 商業施設	資料01 資料18 資料02 資料19 資料03 資料20 資料04 資料27 資料05 資料49 資料06 資料08 資料15 資料17	マラー・ストラナ地区はブラハで最も古い中心地として知られる。ゴシックの街並みで形成されていたが、フス戦争により姿を消した。以降、貴族たちが次々と豪邸を建て始め、現在にも残るバロック様式の館が連なる風景となった。広場は13世紀半ばにブラハ城下の市場として造られた。13世紀末に広場に聖ミクラーシュ教会が建てられた。教会の内部は豪華絢爛である。2階回廊では宗教画の展示が催されていた。 担当者 保坂 純子
2988.1㎡ 	市庁舎前広場	市庁舎 ペスト記念柱・噴水 黄金の冠の家 商業施設	資料01 資料17 資料02 資料18 資料03 資料20 資料04 資料28 資料05 資料29 資料06 資料50 資料07 資料08 資料15	南ボヘミアの小都市でヴルタヴァ川の渓谷に位置する。クルムロフとはドイツ語で「川の湾曲部の湿地帯」を意味する。1250年にビートコフ家が最初の城を築いた。このクルムロフ城はチェコでブラハ城に次ぐ2番目の大きさである。広場は旧市街の中心にある。周辺には14～15世紀に建てられたゴシック様式とルネサンス様式の石造の建物が並び、大半は1階部分がアーケードになっている。広場の北側には市庁舎が建ち、白い壁面が一際目立っている。市庁舎の一室は拷問博物館になっている。1992年には町全体がユネスコ世界遺産に登録されたため観光客が多い。 担当者 小林 美喜子
4451.3㎡ 	市庁舎前広場 旧市庁舎前広場 博物館前広場 教会前広場	市庁舎 旧市庁舎 ブラハティツェ博物館(SITRA'S HOUSE) 聖ジェームズ教会 正義の像・噴水 チェコの人形とサーカスの博物館 警察 商業施設	資料01 資料02 資料03 資料04 資料05 資料06 資料07 資料08 資料51	南ボヘミア州の町で旧市街は城壁に囲まれている。広場は古い建物に囲まれており、市庁舎には壁画が描かれている。この広場で市は開催されない(市は城壁外の広場で開かれる)。広場の半分は駐車場として利用されている。 担当者 小林 美喜子
8222.7㎡ 	市庁舎前広場 博物館前広場 教会前広場 駐車場	市庁舎 歴史博物館 噴水・像 教会 商業施設 公衆トイレ	資料03 資料04 資料05 資料06 資料08 資料20 資料52	ムニエルニクはブルタヴァ川とラーベ川の合流地にある高台の町で、9世紀にスラブ人が移住してきた。カレル1世の時代から歴代の皇帝の直属の町として栄えた歴史をもつ。チェコ最初のコインとなる銀貨をこの町で鋳造した。1274年には都市へと昇格した。ブドウの栽培が盛んで、広場に面する歴史博物館ではワイン造りの歴史がわかる。広場ではクリスマスマーケットが開かれる。調査時は日曜の午前中だったためか、人影もまばらで静かであった。 担当者 中島 瞳
4591.3㎡ 	市庁舎前広場	市庁舎 商業施設	資料03 資料04 資料05 資料07 資料08 資料30 資料53	リベツ州の州都。ドイツ語でライヒェンベルクと称される。1454～1551年、領主のBibersteinがリベツの繁栄の基礎をつくり上げた指導者となった。1577年にルドルフ2世が城と病院を建て、1579年には織物工業が導入され、繁栄した。町で初めての煉瓦造りの建物はSt. Anthony the Great教会と市庁舎だった。広場には巨大な市庁舎の建物が建ち、歩行者空間になっている。 担当者 中島 瞳

CODE	国・都市・広場名称	広場形態	都市における広場の位置
CZE-09-13	国 : CZECH 都市: NYMBURK 広場名称: Náměstí Přemyslovců		
CZE-09-14	国 : CZECH 都市: PODĚBRADY 広場名称: Náměstí Krále Jiřího		
POL-09-01	国 : POLAND 都市: NYSA 広場名称: Rynek		
POL-09-02	国 : POLAND 都市: GLIWICE 広場名称: Rynek		
POL-09-03	国 : POLAND 都市: RYBNIK 広場名称: Rynek		
POL-09-04	国 : POLAND 都市: KRAKÓW 広場名称: Mały Rynek (小市場広場) Plac Mariacki		

規模	広場機能	周辺建築物	資料	都市および広場の概要
9260.1㎡ 	市庁舎前広場	市庁舎 ベスト柱(マリア像) 商業施設 露店	資料01 資料20 資料54	1275年にオタカル2世によって建設された古い要塞都市である。オランダ入植者により技術を伝えられた煉瓦の市壁の一部が残っており、旧市街は二重の掘割で囲われている。30年戦争で戦場となり町は灰と化した。町のシンボルである聖ユリー教会は焼け残った。広場の中心を南北に道が通り、調査時に広場では祭りが行われ、移動遊園地や露店などで賑わっていた。 担当者 中島 瞳
10320.9㎡ 	城前広場 市庁舎前広場	ボジェブラディ城(カレル 大学校舎) 市庁舎 図書館(旧市庁舎) イジー王の騎馬像 マリア像の柱 噴水 商業施設	資料03 資料04 資料08 資料20 資料55	チェコ有数の温泉地であり、唯一民間から国王に選出されたボヘミア王イジーの生まれた町である。13世紀後半にオタカル2世が城を建設し、プラハとシュレジアやポーランドを結ぶ通商路上の町として発達した。プラハに抜ける幹線道路が広場を貫いているが、歩行者空間には花壇やベンチなどが置かれ、整備されている。 担当者 中島 瞳
16286.4㎡ 	教会前広場 旧市庁舎周囲広場	BAZYLKA PW. ŚW. JAKUBA I AGNIESZKI DZWONNICA ZE SKARBCEM ŚW. JAKUBA (鐘楼) 計量所 旧市庁舎の塔 井戸 トリトンの泉	資料09 資料10 資料11 資料13 資料14 資料31 資料56	ニサはシュレジア地方の最古の町のひとつである。10世紀頃町が建設され、ニサ公園としてプロツワフ司教座の一部となった。17世紀から度重なる戦争に巻き込まれた歴史をもつ。第二次世界大戦では町の建物の80%が破壊されたが、その後町は再建された。緑と花壇に囲まれた現在の広場には、再建の計画を示した看板が立てられ、説明されていた。 担当者 中島 瞳
4778.7㎡ 	市庁舎周囲広場	市庁舎 泉・ネプチューン像 商業施設	資料09 資料13 資料32 資料42 資料57	ポーランド西部のシュレジア地方の町である。町の歴史は13世紀の記述に遡る。14～20世紀にかけて様々な国に属した歴史をもつ。19世紀の産業化に伴い町には多数の工場があった。20世紀にはシュレジアの鉄山産業の中心地であった。周囲の建物は度重なる火災に遭い、現在の建物は再建されたものである。広場は歩行者空間になっており、多数のカフェが並ぶ。 担当者 高橋 優貴
5561.5㎡ 	市庁舎前広場 博物館前広場	市庁舎・博物館 像(SW. JAN. NEPOMUCEN)・噴 水 商業施設	資料42 資料58	中世の間、リブニクはクラクフとプロツワフを結ぶ通商路沿いの町として栄えた。Rybnikという名は「魚の池」という意味であり、今日でも市の紋章に魚が描かれている。19世紀には炭鉱が開かれ工業化が進んだ。現在も炭鉱、発電所の他、多数の工場が立地する。調査時広場には、平日の昼間にも拘わらず多くの人がそれぞれの時間を過ごしていた。商業施設が多いため、買い物客などを含む人々が行き交う、賑やかな広場であった。 担当者 保坂 純子
4572.6㎡ 	教会後広場 市場広場 憩いの広場 教会前広場	聖バルバラ教会 聖マリア教会 泉 商業施設	資料01 資料18 資料09 資料42 資料10 資料59 資料11 資料12 資料13 資料15 資料16 資料17	クラクフはポーランド南部に位置する、産業・学術・文化・観光の中心地である。1320～1609年間はポーランドの首都であった。旧市街の歴史地区はユネスコ世界遺産に登録されている。旧市街の中心、中央市場広場の東側にこの広場は位置する。観光客の姿は少なく、静かな広場である。骨董市が開かれる。 担当者 芦川 智

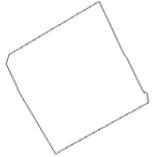
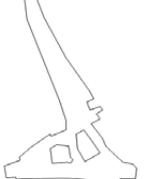
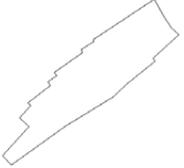
CODE	国・都市・広場名称	広場形態	都市における広場の位置
POL-09-05	国 : POLAND 都市: KRAKÓW 広場名称: Plac św. Marii Magdaleny		
SVK-09-01	国 : SLOVAKIA 都市: KEŽMAROK 広場名称: Hlavné Námestie		
SVK-09-02	国 : SLOVAKIA 都市: POPRAD 広場名称: Námestie Svätého Egidia		
SVK-09-03	国 : SLOVAKIA 都市: SPIŠSKÁ NOVÁ VES 広場名称: Radničné Námestie Letná (夏の通り) zimná (冬の通り)		
SVK-09-04	国 : SLOVAKIA 都市: BARDEJOV 広場名称: Radničné Námestie		
SVK-09-05	国 : SLOVAKIA 都市: PREŠOV 広場名称: Hlavná		

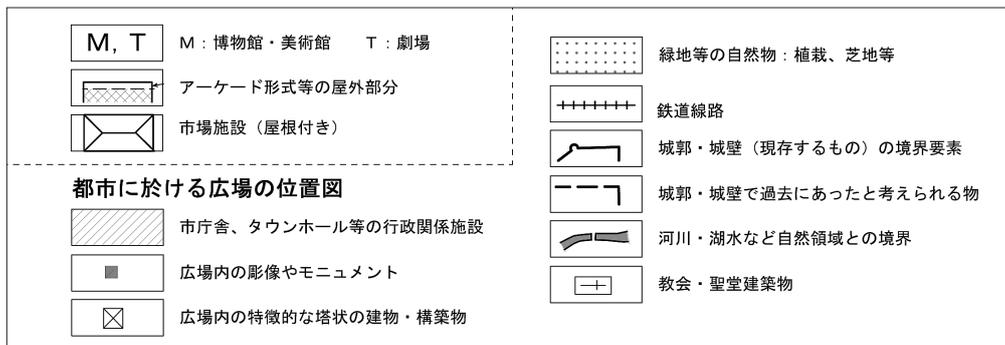
規模	広場機能	周辺建築物	資料	都市および広場の概要
1056.4㎡ 	教会前広場	聖ペテロ・聖パウロ教会 像 商業施設 泉	資料01 資料18 資料09 資料42 資料10 資料59 資料11 資料12 資料13 資料15 資料16 資料17	中央市場広場とヴァベル城を結ぶ道の途中にある。広場の中心には像があり、調査時はその周りに現代アート作品が展示されていた(2009年9月5～25日)。多数の小動物(デン)の彫刻で広場が埋め尽くされ、観光客だけでなく地元の人にも親しまれていた。 担当者 山本 実可子
12699.2㎡ 	市庁舎周囲広場 通り広場	市庁舎 警察署(レドクタ) 仮設舞台 商業施設 花時計	資料01 資料44 資料03 資料60 資料04 資料05 資料06 資料08 資料16 資料21 資料33	ケジュマロックは13世紀に3つの村落が合併してできた町である。都市の中心部は旧市街中央に位置する聖十字架教会を囲むようにして発展してきた。広場は通り状でこの教会の南側を囲むような配置となっている。市庁舎はその南端、通りの中央に建っている。その隣にはレドクタ(音楽やダンスで客をもてなす場所)があるが、現在は警察という表記もあった。広場には車止め、ベンチ、花時計、植栽などが設けられ、歩行者空間として整備されていた。 担当者 山本 実可子
24344㎡ 	教会周囲広場 通り広場 駐車場	KOSTOL SV. EGÍDIA EVANGELICKÝ KOSTOL 像 噴水 泉 仮設舞台 仮設店舗 公衆トイレ 商業施設	資料04 資料05 資料06 資料07 資料08 資料42 資料44 資料61	ポプラトはスロバキア中部の都市で、高タトリ山脈観光の基地である。広場は通り状で歩行者空間になっている。中央部には2つの教会を含む複数の建物が並ぶ。広場の東端に駐車場があり、露店が数軒ある。 担当者 山本 実可子
70248.5㎡ 	教会周囲広場 市庁舎周囲広場 劇場周囲広場 通り広場 記念広場 博物館(旧市庁舎)前広場 市場広場	市庁舎 教区教会 プロテスタント教会 劇場(レドクタ) 戦争記念碑 像(2) 噴水(2) 博物館(PROVINCIAL HOUSE, 旧市庁舎) ギリシア聖教会 市場施設 商業施設	資料04 資料05 資料06 資料07 資料08 資料21 資料34 資料44 資料62	スピシユスカー・ノヴァー・ヴェスはスピシユ地方で最も大きな町のひとつであり、タタル(モンゴル)族に侵略された後、国王が招いたドイツ人移民によって建設された。広場はスロバキアで最も長い広場である。東西軸につくられたため、日の当たる北側は「夏の通り」、日陰の南側は「冬の通り」と呼ばれている。2つの通りに囲まれた中央部には、町のランドマークであるゴシック様式の教区教会など町の主要施設がある。東端は市場になっている。 担当者 山本 実可子
10361.6㎡ 	教会前広場 市庁舎周囲広場 旧市場広場 博物館前広場	市庁舎 BAZILIKA MINOR SV. EGÍDIA SV. FLORIÁNO像 博物館 井戸 噴水 商業施設	資料01 資料21 資料03 資料35 資料04 資料36 資料05 資料42 資料06 資料44 資料07 資料63 資料08 資料15 資料17	バルデヨフは13世紀頃ポーランド国境近くのカルパチア山脈中腹に建設され、ハンガリーとポーランドの交易路上で発展した都市である。14世紀には市壁ができて要塞都市となった。当時の市壁やゴシック・ルネサンス様式の市庁舎がよく保存され、2000年にユネスコ世界遺産に登録された。広場は開放的で見通しが良く、中央部分に位置する市庁舎の1階は町の市場、2階は官舎として使用されていた。広場の北側には聖エギディウス大聖堂が位置している。 担当者 山本 実可子
30823.5㎡ 	教会周囲広場 市庁舎前広場 通り広場 博物館前広場	福音教会 聖ミクラーシュ教会 市庁舎(ワイン博物館) SARISSKÁ GALÉRIA(美術館) 福音派の大学 ネプチューンの噴水 地域博物館(HERAKÓCZI館) 都市解放記念碑 バス停留所 像(3)、彫刻 商業施設 仮設舞台、地下公衆トイレ	資料01 資料37 資料03 資料42 資料04 資料43 資料05 資料44 資料06 資料64 資料08 資料15 資料17 資料21	スロバキアで人口第3位の都市であり、北東スロバキアの文化・商業の中心地である。8世紀にスラブ、11世紀にハンガリー、13世紀にドイツの植民地となった。15～17世紀に手工芸と貿易が発達し、大きな繁栄を遂げた。旧市街は1887年に大火で焼け落ちた後、昔の通りに再建された。広場は最大幅員約90mの膨らみをもつ通り状で、東側の通りは車道となっているが、西側は歩行者用の通りである。中央に教会などが並ぶ。 担当者 中島 瞳

CODE	国・都市・広場名称	広場形態	都市における広場の位置
SVK-09-06	国 : SLOVAKIA 都市: ŽILINA 広場名称: Mariánske Námeste		
SVK-09-07	国 : SLOVAKIA 都市: TRENČÍN 広場名称: Mierové Námestie (平和広場)		
SVK-09-08	国 : SLOVAKIA 都市: BANSKÁ ŠTIAVNICA 広場名称: Námestie sv.Torojice (三位一体広場) Radničné Námestie (市庁舎広場)		
SVK-09-09	国 : SLOVAKIA 都市: BANSKÁ BYSTRICA 広場名称: Námestie Štefana Moyzesa Námestie SNP		

凡 例

広場形態図	
	市庁舎、タウンホール等の行政関係施設
	市庁舎等の施設以外の公共的建物 広域行政施設、警察署、郵便局等
	広場内の彫像やモニュメント
	広場内の特徴的な塔状の建物・構築物
	建物化された商業施設
	緑地等の自然物：植栽、芝地等
	宮殿・館等の建物施設
	泉
	泉+彫像
	城郭・城壁（現存するもの）
	城郭・城壁で過去にあったと考えられる物
	河川・湖水などの水面
	教会・聖堂建築物
	歩行者と車の領域区分界 (段差等で物的に設置されている物)

規模	広場機能	周辺建築物	資料	都市および広場の概要
8258.5㎡ 	旧市庁舎前広場 教会前広場 憩いの広場	旧市庁舎 使徒聖ポール教会・修道院 マリアの像 噴水・像 井戸(2) 商業施設 仮設舞台	資料03 資料39 資料04 資料42 資料05 資料44 資料06 資料65 資料07 資料08 資料17 資料21 資料38	スロバキアの北西部に位置している。1208年に terra de selinan という名で文献に登場し、1312年には Zilina という名の記述があった。広場は約 100m×100m の正方形で、1階部分がアーケードになっている建物で囲われている。16世紀からの3回の大火と1回の大地震によって崩壊した歴史をもつ。1990年代後半にも大規模な工事が行われた。現在広場は歩行者空間になっており、調査時には多くの市民の姿が見られた。 担当者 保坂 純子
8266.5㎡ 	市庁舎前広場 教会前広場 博物館前広場 通り広場	市庁舎 聖フランシスコ・ザビエルのピアリスト教会・修道院 バスト記念柱 城門 トレンチーン博物館 商業施設 仮設舞台 仮設店舗	資料03 資料44 資料04 資料66 資料05 資料06 資料08 資料15 資料21 資料40 資料43	ヴァーフ川流域の中心地のひとつである。町の南東にはランドマークのトレンチーン城が聳えている。トレンチーン城はスロバキアで最も大きな城のひとつで、ハンガリー王国の西部国境を守ることを目的に建設された。城内には帝政ローマ時代に中央ヨーロッパにおける軍事拠点の北限であったことを示す石碑がある。広場にはルネサンス様式やバロック様式の建物が数多く残されている。ワイン祭りやフォークソング会などが行われる。 担当者 保坂 純子
9192㎡ 	市庁舎周囲広場 教会前周囲広場 博物館前広場 教会前広場	市庁舎 聖カタリナ教会 福音教会 聖三位一体の円柱 鉱物博物館 商業施設 仮設舞台 露店 泉 像	資料01 資料41 資料03 資料43 資料04 資料44 資料05 資料67 資料06 資料08 資料15 資料17 資料21	中央スロバキアの南部、山脈と丘陵地帯の斜面地に位置する。ヨーロッパでも重要な鉱山都市のひとつで、11～15世紀にかけて繁栄した。17世紀末から鉱山不況により開発が滞り閉鎖されたが、隆盛期の姿を残す旧市街は「タイプ」という貯水槽とともに、ユネスコ世界遺産に登録されている。広場に面する建物は、裕福な市民や鉱山事業家の住居で、屋内から直接鉱山の坑道に入ることができるという特徴をもつ。調査時は「サマンデル」と呼ばれる毎年9月の第2週目に開かれる伝統的な祭りの最中であった。露店が並び、仮設舞台では伝統的な衣装を纏った人々がダンスを披露し賑わっていた。 担当者 高橋 優貴
14090㎡ 	市庁舎前広場 教会前広場 博物館前広場 城前広場	城(砦・町城・聖母マリアの昇天教区教会・聖十字架教会・マティアス館・官邸) 時計塔 マリアの円柱 聖フランシスコ・ザビエル大聖堂 MÚHLSTEINOVE DOM(市庁舎) 中央スロバキア博物館 赤軍記念碑 商業施設 噴水 仮設舞台 露店	資料03 資料42 資料04 資料43 資料05 資料44 資料06 資料68 資料07 資料08 資料15 資料17 資料21	スロバキア中部の中心都市である。古来より戦略上の要地で、15～16世紀を中心に鉱山町として栄えた。城の複合施設のひとつである聖母マリアの昇天教区教会は別名「ドイツの教会堂」と呼ばれ、鉱山への移民労働者のために建てられたものである。また、官邸は最初の市庁舎であった。町は1944年のスロバキア民衆蜂起(SNP)の地としても知られる。広場の北東端にある時計塔はランドマークとなっており、その上からは広場を一望できる。広場を囲む建物は、ゴシックやルネサンス様式の邸宅も複数みられる。調査時はイベントが行われており、大勢の人で賑わっていた。 担当者 高橋 優貴



28 事例の広場の規模分布を以下のグラフ（図-3）に示す。全体の平均は 12,241.385 m² であった。最大の広場はスロバキアのスピシュスカー・ノバー・ベス（SVK-09-03）であり、その面積は 70,248.5 m² で突出していた。平均以上の広場は 8 つであり、そのうち 5 広場がスロバキアの広場である。つまり今回の調査によって得られた 28 事例は、面積が上位の広場は巨大であり、特にスロバキアの事例において大きな面積のものが多く見られたということである。ちなみに第 19 回までの海外都市広場調査の面積平均は、8,073.28 m² である。

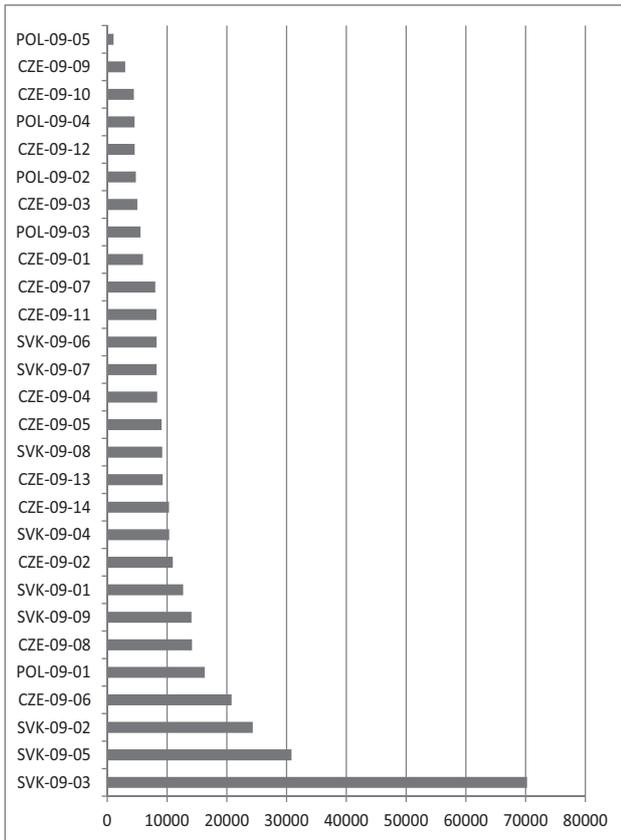


図-3 広場調査事例の分析

これらの結果を受けて、次項ではスロバキアの都市と広場に着眼し、その特徴を記す。さらに街路状の広場の平面形体に着目し、周長と面積を用いた指標化を試みる。

(6) スロバキアの都市と広場

①スロバキアの概要

スロバキア共和国（以下スロバキアと略記）は、ヨーロッパ中部に位置し、国土面積は 49,037 km²（日本の約 1/7）である。人口は 544.5 万人（2011 年 9 月スロバキア統計局）であり、その 85.2% がスロバキア人である。

スロバキアは周囲 5 カ国と国境を接し、国土の 80% が

海拔 750 m 以上の高地に位置する。北部は山岳地帯で鉱工業、林業、放牧などが盛んであり、南部は平野が多く農産物の供給地となっている。

②スロバキアの歴史

近代から現代にかけてスロバキアの歴史で大きな転機となったのは、1918 年のチェコスロバキア共和国の建国である。それ以前の約 1000 年は 9 世紀の大モラビア国時代と同国の滅亡を経てのハンガリー王国による支配（10 世紀）が続いていた。それが 18 世紀末からの民族再生運動の流れの中で、第一次世界大戦とオーストリア・ハンガリー帝国崩壊を受けチェコ人との共同国家としてチェコスロバキアが成立したのである。その後 1939 年にはナチス・ドイツによってチェコスロバキアは解体され、スロバキア国として独立している。第二次世界大戦ではスロバキアは当初ドイツと行動を共にしており、ポーランド進撃（1939）、日独伊三国同盟参加（1940）、日独伊防共協定参加（1941）、対ソ連宣戦布告（1941）を行っている。

第二次世界大戦後はチェコスロバキア国として復興し、スロバキアはひとつの地方としてこの国に再統合された。1948 年には共産党が国家権力を掌握し、強硬な社会主義政策が実施された。しかし 1960 年代には経済停滞が顕著になり、民主化・連邦化を目指す動きが強まっていく。1968 年「プラハの春」を契機とした民主化運動は、スロバキアでは連邦化へと向かい、1969 年チェコとスロバキアはそれぞれ社会主義共和国として連邦体制をとることになる。

1970 年から 80 年代にかけて幾度かの反体制運動が発生するが、いずれも鎮圧され大勢を揺るがす動きとはなり得なかった。

そして 1980 年代末のいわゆる東欧革命によって、チェコスロバキアも共産主義体制が終焉を迎え、1993 年には平和裡にチェコと連邦制を解消、スロバキア共和国として独立した。同年国連に加盟し、2004 年には NATO および EU に加盟している。

③スロバキアの街路状の広場

1990 年および 2009 年の 2 回の調査で訪れたスロバキアの都市は 11 都市である。これらの都市で行った調査の結果、8 都市において広場平面が細長く街路空間に近い形状（以下街路状の広場と称す）をもつ 8 事例を確認した。調査を行った 11 都市はスロバキア全体の中ではごく一部の都市にすぎないが、そのうちの 8 都市においてこのような事例が見られたことから、街路状の広場はスロバキアの広場のひとつの特徴ではないかと推測した。

そこでスロバキア政府観光局のホームページに掲載されている 85 都市について、web サイトの航空写真および地上レベルの写真を利用して、都市の中心部における街路状

の広場の有無とその空間の特徴を調べた。これはあくまで航空写真等に依拠した筆者らの目視による判断を含むため、広場空間の実態、現状とは異なる内容も含まれる可能性がある。しかし、明らかに細長い街路状の平面形状をもつ空間の存在は、航空写真からも十分に判別のつくものであった。結果、表-1 に示すように全体 85 都市中、31 都市について街路状の広場の存在が確認できた。これら 31 例の中には筆者らによる 2 回（1990 年・2009 年）の都市広場調査で確認した 8 都市 8 事例が含まれる。

④街路状の広場の特徴

表-1 に示した空間の特徴（表の横軸の項目）は以下に記すとおりである。

表-1 スロバキアの街路状の広場

No.	都市名	調査実施		複数の通りからなる	緑地帯有	歩行者の空間と車両の空間					広場内独立した建築物			主要建築物有	商業機能有
		2009	1990			歩行者用に整備	歩行者用ゾーン有	外周車道有	外周片側車道有	駐車場が含まれる	複数内包される	単数内包される	非内包		
1	BRATISLAVA				●	●	●		●			●		●	●
2	BANSKÁ BYSTRICA	●				●	●						●	●	●
3	KOŠICE				●		●				●			●	●
4	BANSKÁ ŠTIAVNICA	●		●				●			●			●	●
5	KEŽMAROK	●		●					●			●		●	●
6	LEVOČA		●					●			●			●	●
7	NITRA								●	●			●	●	●
8	POPRAD	●				●	●				●			●	●
9	PREŠOV	●							●		●			●	●
10	TRENČÍN	●						●					●	●	●
11	TRNAVA				●			●		●			●	●	●
12	DETVA					●	●		●	●			●	●	●
13	DOLNÝ KUBÍN					●	●						●	●	●
14	GELNICA				●	●	●		●	●		●		●	●
15	HUMENNÉ			●	●	●	●				●				●
16	ILAVA				●	●			●	●		●		●	●
17	KRUPINA				●			●		●			●		
18	LUČENEC				●			●		●	●			●	●
19	MARTIN				●	●	●				●			●	●
20	MICHALOVCE					●	●						●		●
21	MODRA				●				●	●	●			●	●
22	MOLDAVA NAD BODVOU				●				●	●	●			●	●
23	PIEŽŤANY					●	●						●		●
24	SABINOV				●			●		●	●			●	●
25	SENEC				●	●			●	●		●		●	●
26	SENICA				●	●			●			●		●	●
27	SPIŠSKÁ NOVÁ VES	●			●			●		●	●			●	●
28	SVÄTÝ JUR					●		●		●			●	●	●
29	ŠTÚROVO				●	●	●						●		●
30	ZVOLEN				●	●			●			●		●	●
31	POLTÁR				●				●			●		●	●
	計	7	1	3	18	15	11	9	13	13	12	8	11	26	30

A. 複数の通りからなる

事例の多くは単一の空間からなるものであったが、複数の通りによって形成されている事例が 3 都市で確認された。

B. 緑地帯が有る

この緑地帯とは、単なる街路樹ではなく、芝生地や、見通しを遮るような木立の塊として認識できる規模のものとした。緑地が含まれる広場は 18 都市 18 事例であった。

C. 歩行者の空間と車両の空間の関係

a. 歩行者用に整備されている

路面の舗装デザインや噴水・彫刻、ベンチなど現代的なデザインが施され歩行者用に整備されている様子が見えるものが 15 都市で確認された。これらの中には、対象

空間のうちの一部が整備されているものと、全体的に整備されているものがある。

b. 歩行者用ゾーンが有る

対象空間への車両の進入が規制され、歩行者用の空間が確保されていたものが11都市にあった。これらは広場内の全体または一部分で車道が進入していない空間があり、後述の片側でも車両が通行できる空間が含まれるものは除いてある。

c. 外周車道が有る

広場内に車両の空間が含まれるもののうち、街路状の空間の両側に車道があるものが9都市で見られた。これらはいずれも中央部に中州状の歩行者用の空間があり、その端部または中間部で車道が回り込める形になっている。車両は広場のまわりを一周することができる。

d. 外周片側車道が有る

広場内を道路が貫通する形で車道が設けられているもので、13事例が該当した。規模によっては、道路に沿って駐車場が設けられているものも複数見られた。

e. 駐車場が含まれる

広場空間内に駐車場が含まれるものが13の都市で確認できた。駐車場としてある程度まとまりのある面積が確保されているもの、車道に沿って駐車スペースが確保されているものがある。また歩行者用ゾーンが設けられている場合は、広場内外を含めて歩行者用ゾーンの端部に駐車場が設置されている場合が多い。

D. 広場内の独立した建築物の有無

広場内に建築物が独立した形で配置されているものがある。複数・単数内包されるもの合わせて計20都市において独立した建築物の存在が確認できた。

a. 複数の建築物が内包されている

複数の建築物が内包されるものは12都市で確認した。それらの建築物は、市庁舎、教会、劇場など都市の主要な施設である場合が多い。商業施設が含まれる場合もある。それらは各々独立した建築物となっていて、街路状の広場内に点在するような配置となっている。

b. 単数の建築物が内包されている

内包されている建築物が単数の広場は8事例あった。内包される建築物は前述複数内包される広場同様、都市の主要な建築物の場合が多い。市庁舎、教会、国立劇場などである。

c. 非内包

31都市中11の都市の事例では建築物の内包が確認されなかった。

E. 主要建築物が有る

広場内部および外周部に主要な建築物が位置するものは

26都市にあった。主要な建築物とは、市庁舎などの行政関連施設、教会、劇場、郵便局など都市の中心的機能を担う施設である。また音楽やダンスで客をもてなすためのレドゥッタ (raduta) という施設がある都市もある（現在は他の機能となっている）。

F. 商業機能が有る

街路状の広場が確認できた31都市中、30の都市では広場内に商業施設があった。小規模な個人商店から、比較的近年整備されたとみられるスーパーマーケット、あるいは仮設の店舗、市場施設など種類は多様である。いずれも人の集まる場所として商業機能を担っている空間である。

これらの特徴を踏まえ、以下にスロバキアの街路状の広場調査事例を紹介する。

⑤ スロバキアの街路状の広場事例

■ ケジュマロック (SVK-09-01)

(2つの街路状の空間から構成される広場)

ケジュマロックはスロバキア東部のプレシヨフ州の町である。町は聖十字架教会（写真1）を中心に発展してきた。広場は街路状で、聖十字架教会の南側を囲むようにV字型に構成されている。V字の角の部分に向かって幅員が広がっており、そこに市庁舎が内包されている（写真2）。

市庁舎の周囲は歩道が広くっており、北東側は公園風に整備されていた（写真3）。また、市庁舎の北西側には音楽やダンスで客をもてなす施設レドゥッタがあるが、現在は警察という表記もあった（写真4）。歩行者の空間にはなっていないが、車の交通量は少ない。



写真1 聖十字架教会を中心に町は発展してきた。



写真2 市庁舎を中心に広場は両側へ広がっている。



写真3 市庁舎の北東側。歩行者ゾーンが広がっている。



写真4 レドゥッタという音楽施設

類似事例としてバンスカー・シュティアブニツァ (SVK-09-08) が挙げられる。こちらの町の中心は聖三位一体広場と市庁舎広場の2つの通り状の広場で構成されている。2つの広場の間には市庁舎と聖カタリナ教会がある（写真5）。

ヨーロッパでも重要な鉱山都市のひとつであったため、広場には裕福な市民や鉱山事業家の住居が多く建てられた。広場は斜面地で、北が高く南が低くなっている。調査時は伝統的な祭りが開催され、仮設舞台や露店が並び、多くの人で賑わっていた(写真6)。



写真5 市庁舎(左)と聖カタリナ教会(中央)



写真6 聖三位一体広場。仮設舞台や露店が並んでいた。

■ バンスカー・ピストリツァ (SVK-09-09)

(歩行者の空間として整備されている広場)

バンスカー・ピストリツァはスロバキア中部の中心都市である。15~16世紀を中心に鉱山の町として繁栄した。

広場は1本の通りで構成される街路状で、歩行者の空間として整備されている。周囲を囲む建物は、町が繁栄した15~16世紀に建てられた。内部には建物はなく、植栽、噴水、記念碑などが配置されている(写真7)。広場の北東端には時計塔があり、塔の上から広場を一望できる(写真8)。調査時はイベントが開催され、仮設舞台や露店が並び、多くの人で賑わっていた(写真9)。また、広場の北側にはŠtefana Moyzesa 広場があり、そこには城がある。この城は、複合施設となっていて、砦、町城、聖母マリアの昇天教区教会、聖十字架教会、マティアス館、官邸が含まれる(写真10)。



写真7 中央部には植栽、噴水、記念碑などが配置されている。



写真8 時計塔から見た広場の様子



写真9 仮設舞台(奥)や露店(左)が並んでいた。



写真10 城の複合施設

類似事例としてポプラト (SVK-09-02) が挙げられる。ポプラトの広場は北端に駐車場があり、その先は車両は進

入することができない。中央に2つの教会を含む複数の建物が内包されている(写真11)。南北方向に高低差があり、一部に階段やスロープが設けられている(写真12)。今回の調査事例の中で3番目に大きい広場である。



写真11 中央部に内包された福音教会と憩いの空間



写真12 南北方向(広場の短辺方向)に設けられた階段

■ プレショフ (SVK-09-05)

(広場の外周を通りが囲んでいる広場)

プレショフはスロバキアで人口第3位の都市であり、北東スロバキアの文化・商業の中心地である。15~17世紀に手工芸と貿易により大きな繁栄を遂げた。

広場は2つの通りとその間の部分で構成されている。東側は交通量の多い車道で路面電車やバスも通る(写真13)。西側の通りおよび中央部は歩行者の空間となっている。広場は南北方向にも東西方向にも起伏があるため、通りに階段が設けられている箇所がある(写真14)。

中央部には聖ミクラーシュ教会を含む複数の建物が内包されており、教会の塔はランドマークになっている(写真15)。中央部の南側には像や噴水などが整備され、憩いの空間になっている(写真16)。今回の調査事例の中で2番目に大きい広場である。



写真13 東側の通りは路面電車やバスも通り交通量が多い。



写真14 広場には起伏があり、階段が設けられている。



写真15 中央部に内包される聖ミクラーシュ教会



写真16 噴水の周りの憩いの空間

類似事例としてスピシュスカー・ノバー・ベス (SVK-09-03) とトレンチーン (SVK-09-07) が挙げられる。

スピシュスカー・ノバー・ベスの広場は、通りは両側と

も交通量の多い車道だが、北側には広い所で幅員 20 m 程の歩道が設けられており、ベンチやオープンカフェのテーブルと椅子が並ぶ(写真 17)。中央部は緑地になっており、歩行者の空間である。教区教会などの主要施設および噴水や記念碑が配置されている(写真 18)。今回の調査事例の中で最も大きな広場である。



写真 17 北側の歩道は幅員が広く設けられている。



写真 18 中央部は大規模な緑地になっている。

トレンチーンの広場も同様に両側を車道に囲まれているが、規模も小さく交通量も少ないため、前述のプレシヨフおよびスピシュスカー・ノバー・ベスとは印象が異なる。中央部に建物は内包されていない。南西端には市庁舎が、その斜向かいには聖フランシスコ・ザビエルのピアリスト教会・修道院がある。広場の南東側にはトレンチーン城が聳えており、ここから広場を含む町を一望することができる(写真 19)。調査前日に広場では祭りが開かれており、仮設舞台や露店が並んでいた(写真 20)。



写真 19 城から見た広場と町の様子



写真 20 調査時は露店が並んでいた。広場から城が見える。

(7) 形体指標による広場の平均幅員と長さの考え方

①アクティビティの規模の把握

広場の空間の中での人々のアクティビティは多様である。人間 1 人から始まって複数名、あるいは大集合としての活動まで、段階を追って規模が拡大していく。アクティビティの規模は人間集合のみならず、露店や山車などの用具が加わることで増大する。ひとまず人間集合の規模を把握する場合、人間対人間の距離感覚が重要となる。

これには E. ホールの『かくれた次元』(文献 No. 70) に示される距離感覚が有効である。広場でのアクティビティに対応する人間間の適正距離はおそらく排他域(密接距離)から会話域(個体距離)あたりの幅つまり 0.3 m~1.5 m の規模でアクティビティの性質によってその大きさが変化する

形体であろう。

広場の規模あるいは形状によって人間のアクティビティの規模は変化する。つまり、径幅員 R の領域空間における人間集合のアクティビティの規模を A_C^R とし、その領域を E_R とすると、以下の集合表現が成り立つ。

$$A_C^R = \{Pn | \forall nP_i^r \in E_R\}$$

ただし、 P_i^r はアクティビティに対応する適正な人間と人間の距離 r ($0.3 \leq r \leq 1.5$ m) を含んだ 1 人の人間を示す。

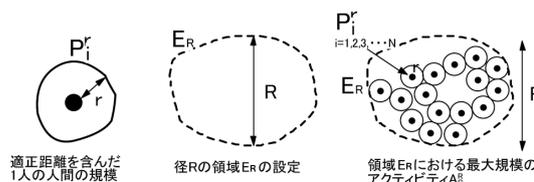


図-4 人間間の距離を考慮した人間集合の規模

ここで、径幅員とはひとつのまとまりをもった人間集合の大きさをその集合の差し渡しにとらえ、概ね円形の直径の表す幅員として「径幅員 R」と定義する(図-4)。

②広場の幅員によるアクティビティの規模の相違

広場の幅員によってアクティビティの規模は異なる。図-5 は 1 人の人間のアクティビティを E. ホールの会話域の最小値 0.6 m としたとき、幅員の相違によりアクティビティの規模が多様に存在可能となることを示している。

ここで、人間集合のアクティビティ規模に幅員が重要な影響力を有する要素となることが示されたといえる。

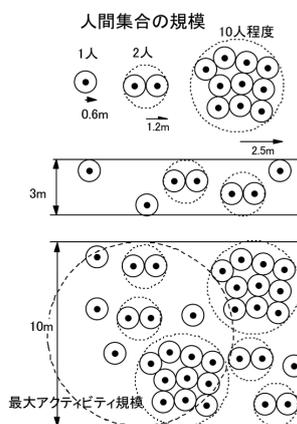


図-5 広場の幅員によって規模が異なる人間集合

③街路状の広場の形体指標

街路状の広場の形体的特徴は、通常の広がりを持った広場に対して、幅員が異なることによってアクティビティの規模も異なる点にある。ここで街路状の広場形体を指標化する要素として周長 L をとりあげ、同一周長で最大面積となる正円面積 S_m に対して、その対象となる広場面積 S がどの程度低減されているかを計量する。そして、その低減率 k に相当する長方形を下記の算定式により計算して短辺を平均幅員 L_a とする。また、短辺に対する長辺の比率を x としてその比率を算定する。

$$S_m = L^2/4\pi$$

$$k = S/S_m$$

$$L_a = (L - \sqrt{L^2 - 16S})/4 \text{ (根の公式より導入)}$$

$$x = S/L_a$$

$$L_a \times (1+x) \times 2 = L$$

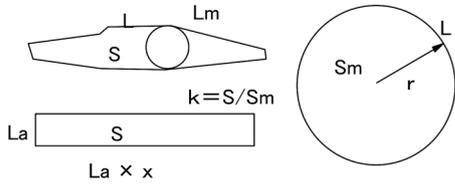


図-6 広場の外形を元にした算定値 (Lm: 最大幅員)

以上を実例に従って算定したものが図-7で、イギリスの街路状の広場を示すコルチェスター (GBR-05-38) (「学苑」No. 789「イギリス都市広場形態についての考察」) の場合に上記手法を適用した図である。これにより、街路状の広場を長方形に置き換え、形体的性質を示すことができる。

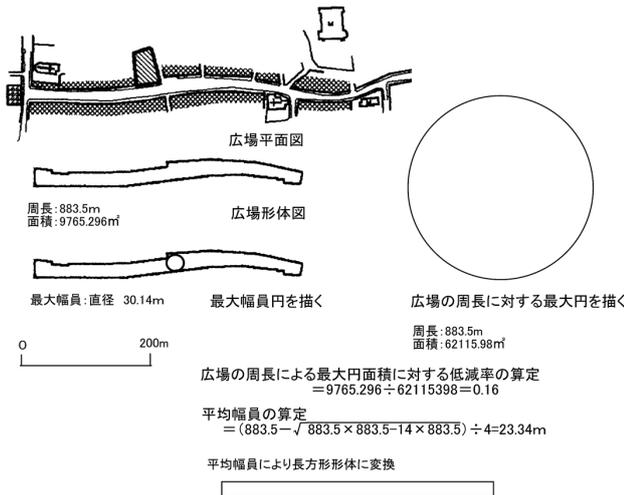


図-7 諸数値の算定 イギリスの事例コルチェスターのハイストリート为例とした算定値

表-2 スロバキアの都市広場の形体分析 (表中面積の単位は m², 長さの単位は m である。)

No.	都市名	面積	面積 S (外形より算定)	L (周長)	L _a (平均幅員)	L _m (最大幅員)	S _m (最大面積)	k (低減率) S/S _m	長辺 (S/L _a)	膨らみ率 (L _m /L _a)
1	BRATISLAVA	23,417	23,417	911	59	77	66,077	0.35	397	1.31
2	BANSKÁ BYSTRICA	14,090	14,090	649	52	66	33,535	0.42	271	1.27
3	KOŠICE	34,483	37,615	1,148	75	84	104,929	0.36	502	1.12
4	BANSKÁ ŠTIAVNICA	9,192	10,160	713	31	60	40,475	0.25	328	1.94
5	KEŽMAROK	12,699	13,172	864	33	64	59,434	0.22	399	1.94
8	POPRAD	24,344	26,907	965	64	74	74,142	0.36	420	1.16
9	PREŠOV	30,824	34,512	1,235	62	91	121,435	0.28	557	1.47
10	TRENČÍN	8,267	8,267	624	29	42	31,001	0.27	285	1.45
19	MARTIN	18,209	20,167	1,030	43	47	84,467	0.24	469	1.09
20	MICHALOVCE	16,854	17,038	895	42	57	63,776	0.27	406	1.36
27	SPIŠSKÁ NOVÁ VES	70,249	75,619	1,519	118	151	183,707	0.41	641	1.28
30	ZVOLEN	49,099	49,991	1,377	82	109	150,966	0.33	610	1.33
	平均	25,977	27,580	994	58	77	84,495	0.31	440	1.39
	標準偏差	17,455.3	18,727.5	270.0	24.5	28.7	45,592.0	0.1	114.7	0.3

※No. は表-1 に示したものである。

④形体指標の意味

まず同一周長の最大円に対する低減率が意味することとしては、図-8 に示されるごとく扁平になるほど低減率が大きいことが明らかである。従って、面積低減率が、広がりを持った通常の広場に対して、街路状の形体の特徴を示す指標となりうると思われる。また、街路状の形体はこの低減率に対応した長方形の形体への変換が可能で、その形体の短辺を扁平した形の平均した幅員と考えることができる。そして最大幅員は、実際の広場平面で最大円を描いたときの直径として測定し、平均幅員との関係によって、扁平な広場形体で何らかの膨らみを持った形体を捉える指標とし、これを膨らみ率 (L_m/L_a) と名づけてひとつの形体的指標としての意味付けを行った。

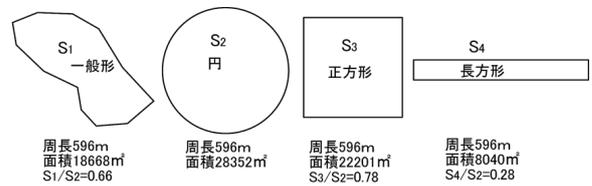


図-8 形体の有する特徴

⑤形体分析をスロバキアの広場に適用

表-2 は今回の調査で採集した広場に、地図情報から採集した広場を加えた 12 都市について、面積および周長等をまとめたもので、図-9 はその広場形体である。図-10 は③で示された形体分析方法を適用しそれぞれ平均幅員を算定し、長方形図形に置き換えたものである。元の広場図形から求めた最大幅員 (図中円で示している) を並記することで、増幅率の視覚化を図ったものである。この作図手法により、それぞれの形体概念の把握が可能となる。

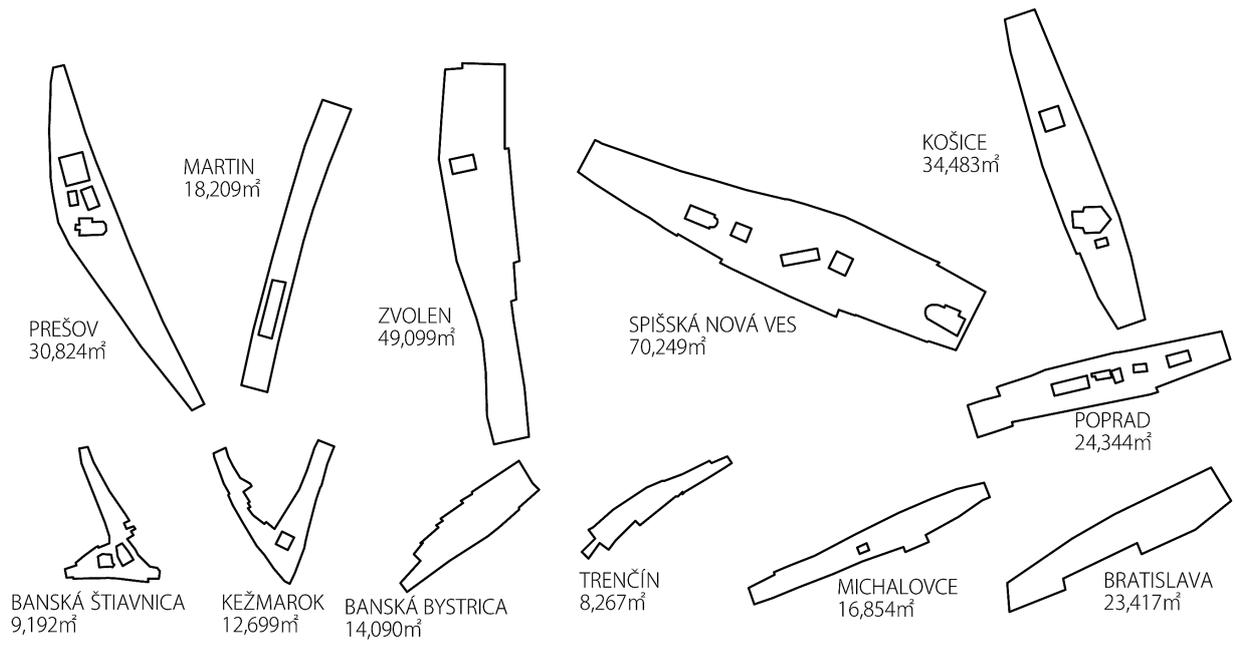


図-9 スロバキアの12広場の形体

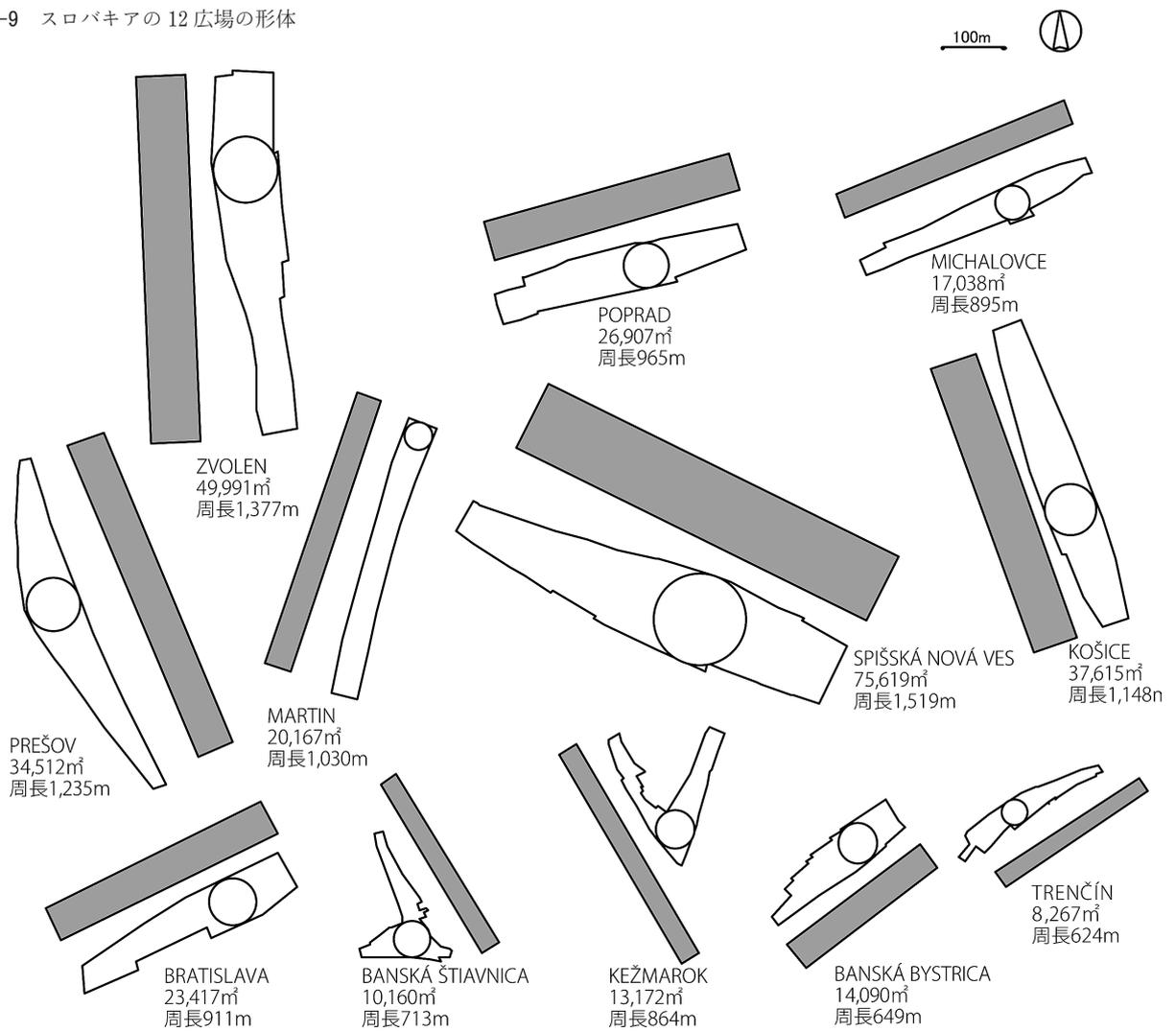


図-10 平均幅員算定による矩形化（スロバキアの都市市場の特徴）と最大幅員

(8) おわりに

研究室では1990年と1991年に東欧諸国についての調査を行っている。これらは東欧革命直後の調査で、調査の遂行には様々な困難があったことはこれまでも報告してきた。現地での給油や国境越えはもとより、見慣れぬ東洋人に注がれる視線は冷ややかなものであった。さらに当時日本国内において、東欧諸国に関する文献を入手することは容易なことではなかった。かろうじて出版されていたガイドブックと英語やドイツ語の文献を頼りに情報を集め、現地調査に臨んだのであった。

それに比べ2009年調査では、現地での調査がスムーズに進行したことは言うまでもない。都市空間は西側諸国と何ら変わりはない。そして調査準備・調査後のまとめ作業においても書籍やwebサイトから豊富な情報を入手することができた。表-1に示したスロバキアの都市情報はwebサイト無しにはまとめることができなかった。約20年の歳月は都市空間だけでなく情報入手の方法にも大きな変化をもたらしている。豊富な航空写真や地上レベルの写真によって、日本にいながらにしてかなりの情報は入手可能となった。

今後の調査活動においては、こうした情報の扱いとそれらを活用する方法が問われることになる。さらに、現地でしか入手できない情報を活かし、実在する空間の魅力を可視化する方法を探りたい。

2009年の東欧諸国は、民主化とともに広場の景観が大幅に整えられ、露店が並び、人々の数が増え、賑やかさが増したことは確かであるが、広場の形体そのものは1990年時点とほとんど変わっていなかった。おそらく第二次世界大戦で被害を受けたところ以外は、戦前の状態と比べても変化がないであろうと思われる。この恒久性について、断片的にはあれ認識できたことも収穫のひとつであった。

本稿ではまた、広場形体についての各指標を導入し、形体分析手法を用いて街路状広場の形体的特徴を記述し、その手法の有効性を示すことができたと考えている。

参考文献一覧

01. Urban Development in East-Central Europe: Poland, Czechoslovakia and Hungary, E. A. Gutkind, The Free Press, 1972
02. Paměť Měst, Odeon, 1975
03. Eyewitness Travel Guides: Czech & Slovak Republics, Dorling Kindersley, 2006
04. Czech & Slovak Republics, Rob Humphreys 他, The Rough Guides, 1996
05. Tschechoslowakei, Erhard Gorys, Dumont Buchverlag, 1990
06. Lonely Planet: Czech & Slovak Republics, John King 他, Lonely Planet Publications, 1995
07. Prospect: New Europe Czechoslovakia, Jana Novotná 他, Prospect Publishing, 1991
08. Blue Guide: Czechoslovakia, Jana Novotna 他, A&C Black, 1992
09. Eyewitness Travel Guides: Poland, Dorling Kindersley, 2001
10. Lonely Planet: Poland, Lonely Planet Publications, 1996
11. Polen, Ivan Bentchev 他, Dumont Buchverlag, 1990
12. Michelin Green Guide: Poland, Michelin Apa Publications, 2007
13. Baedeker Polen, Baedeker, 1994
14. Reiseführer durch das Oppelner Land, Ewa Brosz 他, Alkazar Agencja Wydawnicza, 2008
15. 地球の歩き方 A26 チェコ/ポーランド/スロヴァキア 2009~2010年版, 地球の歩き方編集室, ダイヤモンド・ビッグ社, 2009
16. ガイドブック音楽と美術の旅/チェコ・スロヴァキア・ハンガリー・ポーランド, 音楽之友社, 1995
17. 世界の建築・街並みガイド5 オーストリア/ポーランド/チェコ/スロヴァキア/ハンガリー/ルーマニア, エクスナレッジ, 2004
18. ワールドガイド チェコ・ハンガリー・ポーランド, JTBパブリッシング, 2008
19. 図説 チェコとスロヴァキア, 薩摩秀登, 河出書房新社, 2006
20. 旅名人ブックス45 プラハ・チェコ 中世の面影を残す中欧の町々, 沖島博美 他, 日経BP企画, 2008
21. スロヴァキア 絵入りガイド, Martin Sloboda, MS Agency s. r. o., 2006
22. Historic Sites of Jewish Mikulov, Jaroslav Klenovský, Mikulov Regional Museum, 2000
23. Mikulov, Ludeslava Šuláková, Oswald, 1992
24. Brno City Guide, Aleš Filip, K-public, 2006
25. Velké Meziříčí Historické a jiné zajímavosti, Vladimír Makovský, Město Velké Meziříčí, 2007
26. Třebíč: History and Sights, 2006
27. 地球・街角ガイド タビト 6 プラハ, 同朋舎出版, 1995
28. チェスキー・クルムロフ 歴史的な町, 城砦, 城, Mgr. Zdena Flašková, Vydavatelství MCU s. r. o., 2007
29. チェスキー・クルムロフ 中央ヨーロッパの魅力的な町, ペトル パヴェレット
30. Liberec, Libor Sváček, Vydavatelství MCU s. r. o., 2009
31. Nysa, Śląski Rzym, Zbigniew Zalewski, Wydawnictwo MS, 2007

32. Gliwice Wczoraj Gleiwitz Gestern, Marek Gabzdyl, Wokół nas, 2009
33. Kežmarok, Nora Baráthová 他, JADRO, 2006
34. Spišska Nová Ves, Juraj Spiritza 他, Mini fotografické publikácie, 2001
35. Bardejov a Okolie, František Gutek 他, ARS Monument, 1997
36. Turistic Guide: Bardejov and Vicinity, Juraj Popjak 他, Grafotlač Bardejov, 2006
37. Historical Sights in Prešov and Its Surroundings, Dionýz Dugas, Dino, 2005
38. Žilina na starých pohľadniciach, Marián Mrva, Dajama, 2008
39. The City of Žilina and Its Surroundings, Ján Štofko 他, Knižné centrum
40. Trenčín: Pictorial Guide: Martin Sloboda, MS Agency s. r. o., 2005
41. Banská Štiavnica, Marián Lichner 他, Štúdio Harmony, 2005
42. ブリタニカ国際大百科事典 電子辞書対応小項目版, ブリタニカ・ジャパン, 2009
43. デジタル大辞泉, 小学館, 1998
44. スロバキア政府観光局, <http://www.slovakia.travel>, 2013/5/4
45. Mikulov Město s vůní jihu, <http://www.mikulov.cz/>, 2012/10/10
46. oficiální web statutárního města Brna, <http://www.brno.cz/uvodni-strana/>, 2012/10/24
47. Město Velké Meziříčí, <http://www.mestovm.cz/>, 2012/10/24
48. Třebíč: Oficiální internetové stránky města, <http://www.trebic.cz/>, 2012/11/7
49. Praha.eu, <http://www.praha.eu/jnp/cz/home/magistrat/index.html>, 2012/11/21
50. Český Krumlov: oficiální informační systém, <http://www.ckrumlov.info/php/>, 2012/12/5
51. Informační server regionu Prachatice, <http://www.prachatice.cz/>, 2012/12/5
52. Město Mělník: oficiální stránky města, <http://www.melnik.cz/>, 2012/12/12
53. Statutární město Liberec, <http://www.liberec.cz/>, 2012/12/19
54. Oficiální stránky města Nymburk, <http://www.meu-nbk.cz/>, 2012/12/19
55. Poděbrady město našich srací, <http://www.mesto-podebrady.cz/>, 2012/12/27
56. Nysa portal urzędu miejskiego, <http://www.nysa.eu/>, 2012/12/27
57. Gliwice stare Miasto, <https://gliwice.eu/>, 2012/12/27
58. portal miasta Rybnika, <http://www.rybnik.com.pl/>, 2012/12/27
59. Magiczny Kraków, <http://www.krakow.pl/english/>, 2013/1/30
60. Oficiálne stránky mesta Kežmarok, <http://www.kezmarok.sk/obcan/>, 2013/4/17
61. Mesto Poprad, <http://www.poprad.sk/>, 2013/4/17
62. Spišska Nová Ves.eu, <http://www.spiskanovaves.eu/>, 2013/4/24
63. Bardejov-najkrajšie mesto na Slovensku, <http://www.e-bardejov.sk/>, 2013/4/24
64. mesto Prešov, <http://www.presov.sk/portal/>, 2013/5/2
65. Town of Žilina Tourist Information, <http://www.tikzilina.eu/en/>, 2013/5/2
66. Oficiálne Stránky Mesta Trenčín, <http://www.trencin.sk/mesto>, 2013/5/2
67. Banská Štiavnica Mesto svetového dedičstva, <http://www.banskastiavnica.sk/index.html>, 2013/5/2
68. Oficiálne stránky mesta Banská Bystrica, <http://www.banskabystrica.sk/>, 2013/5/2
69. 外務省 各国地域情勢 欧州 スロバキア共和国, <http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/slovak/>, 2013/5/3
70. かくれた次元, エドワード・ホール, みすず書房, 1970
71. 東欧を知る事典, 平凡社, 1993
72. Google マップ, <http://maps.google.co.jp>, 2013/5/28
73. 都市のオープンスペースの概念規定モデル—ヨーロッパの都市広場とアジアの都市空間の分析—, 金子友美, 学位論文(昭和女子大学), 2013

(あしかわ さとる 環境デザイン学科)
(かねこ ともみ 環境デザイン学科)
(たかぎ あきこ 環境デザイン学科)